

ブロッコリーセル内施肥育苗における 接触刺激の生育促進効果

生産現場では、家畜ふん堆肥の過剰な施用によるリン酸・カリ蓄積圃場が増加しています。そこで、これらの肥料成分をほとんど含まない肥効調節型肥料をセル内に施肥した後、接触刺激を加える健全苗育成法を開発しました。この方法は、ブロッコリーの充実した苗を育てると同時に、リン酸・カリ蓄積圃場の改善に効果があります。

栽培方法

1. 育苗条件：市販の園芸培土（スーパー子床）は、N:P₂O₅:K₂O=0.2g/l:0.7g/l:0.2g/lを使用。セル内施肥育苗は、播種時に培土と被覆燐硝安（100日シグモイド）のN:P₂O₅:K₂O=24:0:1を混和。
2. 施肥量：セル内（直径35mm×深さ50mm）に6.6gの被覆肥料を施肥すると、N, P₂O₅, K₂Oは9, 0.4, 0.4kg/10aに相当。
3. 接触刺激：播種7日目から、午前10時と午後3時に14日間、毎日ブロッコリーの苗がねる程度に手で押し倒す。
4. 適応品種：ピクセル（アントシアニン系品種）では、接触刺激の処理効果が最も大きい。改良緑炎（アントシアニンフリー系品種）では処理効果が小さい。



無処理区

接触刺激区

セル内に肥効調節型肥料を全量施肥しても、ブロッコリー苗に濃度障害は見られず、追肥作業が省力できます。

接触刺激がブロッコリーセル内施肥育苗の生育・発根に及ぼす効果（品種:ピクセル）

| 処理区 | 地上部 | | 地下部 | | | 窒素吸収量 (mg/株) |
|------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------------|
| | 草丈(cm) | 胚軸径(mm) | 総根数(本数/株) | 総根長(m/株) | 最長根長(cm) | |
| 無処理区 | 16.1(100) | 2.1(100) | 168(100) | 2.4(100) | 13.7(100) | 0.9(100) |
| 処理区 | 14.5(90) | 2.4(114) | 169(101) | 2.7(113) | 23.5(172) | 0.8(89) |

接触刺激はセル苗の徒長を抑制し、胚軸を太くします。総根長と最長根長が長くなるため、健全苗育成に役立ちます。